

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774401232		
法人名	有限会社 ローズマリー		
事業所名	グループホーム みんなの家 (たんぼぼ)		
所在地	大阪府大阪市城東区諏訪2-8-4-604		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	平成30年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigoyosoCd=2774401232-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で、ごく当たり前のようにグループホームみんなの家があり、近隣の方にも温かく見守って頂いています。スタッフも心温かい寄り添いのケアが実践できています。アットホームで優しい環境が築けています。ターミナルケア早くから実践しており、尊厳を守りつつ最期まで近隣の開業医と連携をとり生活して頂いています。雨天以外は散歩など外出する機会をとり、個別対応しています。また、足浴も毎日の日課となっています。平成17年2月開設し、13年目となり、入居者様の重度化されていますが、元気で長生きをモットーに日々笑顔大切にしています。月に1回ユニット合同レクにて、入居者様にスタッフが元気をもらう事の出来るホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、天候が良ければ散歩や買い物に出掛けたり、地域の盆踊りへの参加や近隣の神社への初詣や花見等の季節に合わせた外出を実施する等、外出する機会を多く持ってもらえるよう支援しています。事業所で夏祭りを実施する際には近隣の方の参加があったり、敬老会やクリスマス会には手品や音楽の披露のボランティアの来訪がある等、地域の方との交流に努めています。また利用者とは家族のような関係性の構築を図り居心地の良いアットホームな場所となるよう努め、管理者をはじめ職員間で話し合い協力しながら日々の支援に取り組んでいます。利用者に携わってもらいながら調理した食事を職員も利用者と一緒に談笑しながら食べる等、明るく温かな雰囲気の中で笑顔で過ごせるような事業所作りに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフには面接時に伝えており、何か問題があったときの対応に関しても、理念に沿った運営を意識している。	事業所独自の理念を玄関等に掲示し、職員に意識付けを行っています。職員の入職時に理念に込められた思いを説明し、勉強会の際にも折に触れて理念についての話をしています。日々の支援の中でも利用者に寄り添いながら利用者を家族と思い、温もりある支援に取り組むことで理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	雨天や利用者様の身体状況を考慮して行わない事もあるが、基本散歩は毎日行う事をオープン当時より継続しており、地域の事業所さんや近隣住人とも挨拶やたわいもない会話にて普段から交流を大事にしている。	雨の日以外の毎日の散歩の際には近隣の方と挨拶を交わしています。利用者や近くの神社の夏と秋の祭りや地域の盆踊りへ参加したり、保育園の運動会を観に行くなど交流しています。事業所での夏祭りには近隣の方の参加があり、敬老会やクリスマス会には手品や音楽の披露等のボランティアの来訪もあります。また地域の方から認知症に関する相談や協力などを通して地域とのつながりを大切に支援しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ建物の住居人さんでご家族さんが認知症にて悩まれている状況を見て、必要なアドバイスや、相談にのったり、徘徊されているときは、ご家族様と一緒に探したりさせていただいてる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告中心にはなるが、アドバイスもいただき、当事業所に取り入れられる部分は取り入れるように意識している。	会議は2か月に1回家族やケアマネジャー、協力医の看護師、ボランティア団体の方等の参加の下開催し、利用者の状況や活動を報告し、意見交換しています。他事業所の取り組みを聞き参考にしたり、認知症に関する勉強会を実施して参加者を多く得られるように工夫する等、会議をサービスの向上や事業所の理解に活かすよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護が多く入居されている状況のため、生活保護課の方への現状報告、なども含め意見を交換している。社協の方とも連携をとっている。	運営上の手続きで行政の窓口へ訪問したり、不明点の相談を行政の担当に電話で行っています。行政から実践者研修等の案内が届いた場合は参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠も含めベット上、トイレ時など、拘束のない様意識してケアに取り組んでいる。また、ケアについても拘束であるかないかも含め、普段からよく話し合っている。	年1回身体拘束に関する勉強会を実施し、不参加の職員には内容を伝達し知識を身に付けてもらっています。利用者がどう思うかを考えながら日々の支援に取り組み、行動を制止する言葉かけ等が見られた場合はその都度職員間で話し合っています。玄関は日中開放しており、外出希望の利用者には出来るだけ職員が寄り添い外出して気分転換を図ることで閉塞感の無い支援に取り組んでいます。	

グループホームみんなの家(たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な暴力、暴言はもちろん、言葉かけひとつに対しても配慮し、話し合い、虐待について普段から学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人については、現状必要な方はいない状態ではあるものの、ご家族様の中に、市民後見人として活躍されている方もいらっしゃるのので、いつでも相談にのっていただけるような状態にはしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居していただいてからの不満が出ない様、できる限り、時間をかけて、不満のないよう理解していただくよう努めている。入居後も、もちろん少しの疑問でも随時傾聴し、ご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、できる限りの要望や、不満などを聞くよう努め、それらの意見をスタッフには周知し、取入れられるものは取り入れている。	利用者からの要望や思いは日々の関わりの中で聞いており、家族からは面会時に管理者や職員が積極的に家族へ声をかけ、普段の様子を伝えることで意見や要望を出来るだけ得られるように努めています。家族から服装に関する意見があり、家族に状況を伝えながら、利用者を選んでもらうようにする等、得られた意見は職員間で共有し検討しサービスに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見を出しやすい環境を作ることを努め、即座に反映できることは即座に反映行っている。	定期や随時に実施する会議や日々の支援の中でその都度職員から意見を聞いています。利用者の状態に応じて休憩時間を見直し業務改善に繋げる等、意見を運営に反映しています。また年2回の親睦会や必要に応じて個別面談を実施したり、職員の様子を見て声を掛ける等、出来るだけ意見や思いを聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	充分に行う事は出来ていない事もあるが、把握できるよう、やりがいのある職場作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部ともに必要な情報の収集、研修などを取り入れている。希望者には可能な限り、要望をきいて参加してもらえるよう行っている。日常のケアを題材に普段から計画作成者、リーダーにとどまらず、スタッフともよく話しあい、ケアについて吟味している。		

グループホームみんなの家(たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークを通じ、情報交換や、意見交換などを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のご容態、様子をよく理解できるよう、スタッフを配置し、スタッフには周知を徹底している。安心できる環境づくりを提供できるよう、入居前の準備段階より、最善を努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と連絡を密にとれるよう意識し、入居後一か月進捗状況を写真入りのお便りにして郵送している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの運営環境上、経済的に困難な事もあるが、利用者様に応じた一番必要だと思われる事を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	みんなの家の理念に基づき運営をおこなっていることもあり、信頼は築けていると思う。他社様が来訪されたときにも、内部の様子は称賛していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクなどにおいても、ご家族様が参加しやすい状況を作り、普段から、ゆっくり会話できる環境を提供しているご家族様のご要望を聞きリーダーや計画作成者はもちろん、スタッフと話し合い、最善のケアを提供できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	以前からのお知り合いやご家族様に来訪していただいたときに、その方たちへも同じよう接することを心掛けている。場所については、会話や散歩時の風景など、思い出していただけるよう努めている。	友人や近所の知人等の来訪の際にはリビングや居室へ案内しお茶や椅子を用意し過ごしてもらえよう配慮しています。神社や商業施設に出掛けたり、家族と一緒に自宅に帰ったり、墓参りや外食等馴染みの場所に出掛けています。家族との外出の際には服装や薬等の身支度を支援しています。また年賀状の作成の支援を行う等出来るだけ馴染みの関係が途切れないう支援をしています。	

グループホームみんなの家(たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い意味でみんなを巻き込み、家族のように接していただいている。もちろん口論となることもあるが、信頼関係を築けるよう意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方でも、遊びに来ていただいたり、ご家族様よりご連絡いただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からその方についてよく知ることを念頭に置き、その方本位のケアを意識し、検討している。	入居時に面談で利用者や家族から生活歴や好み等の意向に繋がる情報を聞きシートに記入し、入居後に日々の支援の中での利用者との会話から聞いた思いや希望も記録して職員間で共有しています。把握が困難な場合でも利用者の様子や表情から汲み取ったり、家族にも相談して職員間で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にてご家族様にセンター方式などを記載していただき把握できるようにしている。また、日常会話から聞きだし、周知できるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録媒体にて変化を把握し、なにげないことでもスタッフ間の会話により、共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方本意のケアを意識し、より多くのスタッフの意見を聞き、考えが固執しない様努めている。	本人や家族の希望やアセスメントを基に作成した一人ひとりに合った介護計画は、短期目標は3か月、長期目標は6か月と設定し見直し、利用者の状態に変化があれば随時の見直しを実施しています。日々の介護記録には計画の実施状況を記載し、計画への職員の気づきや意見を収集し共有出来るようにしています。毎月モニタリングを行い、見直しの際は再アセスメントを実施しサービス担当者会議を開き、事前に聞いた家族や医師、看護師等の意見を計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化、身体状態、気づき、思いなど記録媒体を基に介護計画の作成、見直しに活かしている。		

グループホームみんなの家(たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体、精神状態の変化に基づき、随時見直している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に暮らしているスタッフや、近隣住人の方に情報などできることを奉仕するように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は普段より大事にしており、書面、口頭にて現状報告は随時行っている。ご家族様のご要望や、当施設の方針もかねて、意見交換などもおこなっている。	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続か協力医への変更を選択してもらい、かかりつけ医を継続している方は基本的に家族の対応で受診してもらっています。協力医は24時間連絡可能な体制で月2回の往診を受けています。また事業所の看護師による健康チェックや利用者の必要に応じて訪問歯科の口腔ケアや治療や鍼灸師の施術を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師、かかりつけ病院の看護師に随時、相談し、助言頂いている。訪問看護はあまり利用機会はない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	書面を中心に、情報提供、報告を受けている。必要な情報は、面会を通してほぼ毎日伺い、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には入居前より、どの様なケアを望まれているのかしっかりと話しあっている。また日常の何気ない会話から本人の意向も聞きだし、本人の思いなども含め、かかりつけ医にも意向を伝えている。	入居時に看取りの方針を家族へ説明し事業所として対応可能な事を伝え同意をもらっています。利用者の状態が進んだ際に医師から家族に説明してもらい、家族と医師、職員の三者間で話し合い体制を決定し支援に取り組んでいます。看取り支援の勉強会を実施して知識を身に付けると共に、支援の方針や方法は職員間で話し合い共有しながら取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修会含め、日常より勉強している。		

グループホームみんなの家(たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方との情報交換や、専門の方(消防士)の指導の下対応できるように備えている。	年に2回それぞれ昼夜の火災を想定し内1回は消防署立会いの下行い、利用者の避難を想定して通報や水消火器を使用した訓練を実施しています。訓練を実施する際には掲示物で告知し、実際に同じマンション内の方の参加を得たこともあります。災害発生時には階下の住民に事業所まで避難してもらうよう伝える等、近隣との協力関係の構築にも努めています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、またその方の個性として、普段から尊厳を大事にし、親しき中にも礼儀ありの信条を基に、適度な金緊張感も忘れずに対応している。	年に2~3回プライバシーに関する勉強会を事業所で実施しています。利用者は目上の人であり、敬意を持った接し方を心掛けると共に、利用者それぞれの状態に応じて臨機応変に対応しています。排泄支援時の声かけは直接的な言い方を避けたり、希望に応じて同性介助を実施する等、羞恥心に配慮した支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩に行く前や、入浴前の服選び、散歩にルートの選択など普段からご本人に選択していただく事の大事さを意識して業務を行うように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースや生活リズムを大切にし、スタッフの都合による行動を行わないように、普段からスタッフと子ども話しあっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの髪型や、服などできる限り本人に選んでいただき、本人のご要望を大事にしている。会話のできる方に関しては、日常会話などから聞き出すようにも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから、利用者様にもできるだけ協力していただき、話しや、声掛けにて、興味を持っていただけるよう工夫している。	業者から献立と食材が届き、事業所で利用者の希望を聞きながら味付け等を工夫して調理しています。利用者には包丁で材料を切ってもらったり、野菜の下拵え、食器洗い等の後片付け等出来る事に携わってもらっています。職員も同じ物を利用者とテーブルを囲んで談笑したりさりげなく介助しながら食べています。またおせちや巻き寿司、お好み焼き等を作ったり、誕生日に個別で外食に行く等、食事が楽しいものとなるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りがいいかバランスが良いかなど、単位計算を基に考慮し提供している。刻み食やに関して、粗さやとろみ具合、色など、見た目もいように考慮している。水分摂取に関しては摂取量も記載し、常時摂取量を意識している。		

グループホームみんなの家(たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時口腔ケアの支援、提供を行っている。誤嚥性肺炎が起こりやすい利用者様に関しては、摂取前、後とケアを徹底、周知している。専門医(訪問歯科)受診時にも不具合があれば指導を仰いでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えがある利用者様に関しては、その方のタイミングを最も大事にし、日々のデータから考慮し、下肢筋力の低下を防ぐため、なるべくベットでのおむつ交換を避け、トイレ誘導を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、利用者個々に排泄記録を取りパターンを把握し時間や様子を見ながら声かけや誘導を行っています。夜間のみおむつやポータブルトイレを使用する利用者もいますが、排泄の支援を継続することで紙パンツから布の下着で過ごせるようになる等、排泄状況が改善した利用者もいます。また利用者個々に応じた排泄用品の種類を職員間で検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、摂取物(水分、食事)を意識して、自然排泄が行える様に支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を行わない曜日に関しても、毎日足浴していただいている。入浴拒否がある場合、できる限り希望に沿って実施している。	入浴は週2回を基本に午前中に支援し、利用者の希望があれば回数を増やしたり、夜間の入浴も検討可能です。入浴拒否が見られる利用者には日時を変えて声をかけたり、入ってもらえるような対応を工夫して無理の無い入浴に繋げています。また入浴剤を使用したり、好みのシャンプーやリンスを持ち込む方もおり、会話も楽しみながらゆっくり入浴してもらえるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時より寝具やベットタンスなど、ご自身の落ちつける環境で入居していただく事により、安眠や休息しやすい環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日管理日報に記録し、変更があれば必ず周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の尊厳を大事にし、それぞれの役割を意識してもらえるようケアを行っている。		

グループホームみんなの家(たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩を行っており、買い物などのご要望があれば、可能な限りお答えしている。	天候が良ければ入浴する利用者の方以外は毎日散歩や近所のスーパー等買い物に出掛けたり、玄関先でお茶を飲む等外気浴もしています。また季節毎に近隣の神社へ初詣や弁当を持って桜の花見や藤を見に出かけています。家族と自宅に帰ったり、墓参りや外食、ドライブに出掛ける利用者もおり、出来るだけ外出する機会を持てるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望があれば所持していただいている。また、買い物へいったときにおいては、ご自身で支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常にて、メニュー書き含め、字を書く事、自分の意志を伝えることを大切にし、ご家族様に対しても、ご自身にて、電話や対応、手紙の書けるかたは書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画、清潔になるようかたずけも、常に整理行う様習慣化している。壁紙やクッションフロアに関しても、利用者様が居心地の良い空間になるよう定期的に張り替えなどおこなっている。	利用者が描いた塗り絵や利用者職員で作った季節に応じた貼り絵の作品等で飾り付けを行い温かい雰囲気作りに努めています。利用者同士の関係性を考慮してテーブルや椅子を配置し、会話をしやすくしたり、ゆっくり過ごしてもらえようソファの置き場所を考えています。利用者の体感を聞きながら室温を調整し、加湿器の使用や採光にも気を配り、毎日掃除や換気を行い快適な共用空間作りに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやリビングにて、それぞれが親しめる空間を意識し、提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち寄り、本人が快適に過ごせるよう努めている。本人が作成したものなども部屋に飾り、我が家を意識した部屋づくりを行っていただいている。	入居時に家族へ使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらうよう伝えています。ダンスや棚、ぬいぐるみ、家族の写真、仏壇等を持ち込み家族が職員と相談しながら配置し、DVDプレイヤーを持ち込み楽しんでいる方もいます。利用者にも出来る事に携わってもらいながら毎日清掃を実施し快適に過ごせるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の身体状況、体調を把握し、ほんのささいな出来事もスタッフ間にて周知することで、一人ひとりをより把握し、利用者様の可能性を狭めない様、安心、安全も意識して日常よりケアを行っている。		